

地域人教育

飯田OIDE長姫高校で展開している「地域人教育」は、高校生が地域理解を深め、地域での生き方を考え、郷土愛を育み、地域活性化や地域社会に貢献できる人財を育成する教育プログラムです。飯田市と松本大学と飯田OIDE長姫高校は2012年に協定を結び、互いに協力しあって「地域人教育」を進めています。

伸ばしたい力 → 自分で考え、行動できる力

主体性
自律性

企画力
実践力

協働性
Win-Win

地域理解
持続可能な地域

郷土愛
誇り

育てる人財像 → 地域の産業、暮らしの中核を担うリーダー

地域のヒト・モノ・企業をつ
なぎ、仕事を創る職業人

地域資源を生かした新ビ
ジネスの起業家

地域活動に参加し暮らしと
文化・伝統を支える社会人

住民・企業と協働して課題
に取り組む行政リーダー

3年間のカリキュラムマップ



地域の専門家から
現地で学ぶ



大学の先生から
地域について学ぶ



地域の方とのイベント
準備、実施



野外でのブラレール
(大盛況でした)



フィールドスタディ
(地域の方に聞く)



地域の魅力、課題を
まとめる、発表する

1年次 目標 地域を知る

1, 2学期

フィールドスタディ
飯田市の中心市街地を練り歩き、街の人から地域の魅力や課題を教えてもらうとともに、自分たちでも発見をします。

3学期

地域に関する講演
松本大学の教授による地域連携に関する講義のほか、地元の経営者、金融、行政の専門家から学びます。

学びの積み上げ

2年次 目標 地域で活動する

通年

地域イベントへ参加
地元で行われるイベントに運営者として積極的に参加することで、世代を超えた協働とコミュニケーションを磨きます。

2, 3学期

商品開発・情報発信
地域資源を生かした商品の企画・開発の取組と、POP、広告、プレゼンテーションなどの情報発信について学びます。



ゆるキャライベント
(生徒が中に・・・)



地域の方と協働して
屋台を運営する

3年次 目標 地域の課題解決に向け行動する

1, 2学期

地域連携企画・実践
地域課題を発見し、地域資源を生かした企画をし、地域の方と協働して実践します。市民向け、観光客向けなど多岐に渡ります。

通年

地域への提言活動
実践から魅力発信や課題の解決策を市長や地域へ提言するとともに、意見交換することで、次や卒業後の実践に生かします。

学びの積み上げ



生徒によるイベント企画
(花見、スイーツ、お茶会等)



商店街空き店舗の活用
(定期的な喫茶店開店)



市長や地域の方への街
づくりに関する提言活動



生徒自らが、地域の産業人と
協働し、開発した商品の販売

全校課題研究発表会



飯田市
牧野光朗 市長



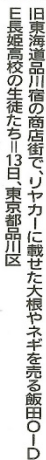
松本大学
住吉廣行 学長

「ムトス」という言葉に表されるように、飯田には自分たちの地域を自分たちでつくっていくという自主・自立の風土があります。地域人教育を通して、高校生のみなさんは地域社会という「現場」を体験し、そこで活躍している様々な方と出会います。その経験の中で、未来の飯田を担っていただくみなさんがムトスの精神を引き継ぎ「自ら考え行動し、課題を解決していく力」を育んでいってもらえることを期待しています。

高校と大学で高大連携協定を結んでいることに加え、全国でも稀有な高校・大学・行政の三者が協定を結んだ取組で、すでに4年が経過しています。市長自らも講義をされるなど、高校生は少しプレッシャーを感じるかも知れませんが、期待され幸せだと思います。

地方創生を先取りしており、これからのモデル的事業として全国に発信できるように、この取組が成長することを期待しています。

2015.12.23 南信州新聞



飯田OIDE長姫高生、都内で行商

いた。

地域商店街活性化のために偶数月の15日

地獄商店の活性化のためは毎月一日に全店閉鎖を用いて、まちがサロンのイベントを企画している。市井で松原・樋口の町内会・サロント八幡（北照南高校）8店舗は、月日、飯田O・K、地蔵校長、商店の年生9人〇と協働で慶楽堂を開いた。昨年に続いている同日、こじは、慶楽堂のほか、生徒によるヤカ〜店頭での野遊席にもちあれた。

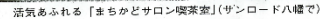
同校の坂下蘭子と教諭によると、課題研究地区として慶楽堂「地獄」を顕現させた生徒たち、地域の人間関係のつながりを知るための前工程として、初めリヤカ販出て交流した「地獄」を出発し、高橋先生を介して地域でできる人々によって狙い正しい。

リヤカ販売では、仕入れた新鮮な果物、花びらを種へ地獄を売っていきたい

一販を準備し地獄人間わりの知り、こじや学生だこじを売っていきたい

誠を孝き、鈴を鳴らす時ひ込みを行なった高橋の女性が入った。江戸リヤカが来者の待つ姿も、足元の自由田久や夢て外に出てくるとリヤカが目の前に来れば、これも多分でのと期にこの高橋ほかにん(18)を売った。

生徒たちは、リヤカ販売を通じて地獄人間わりの知り、こじや学生だこじを売っていきたい

[illegible]

れるので、こういう企画は「フジテレビ」の北原君は「今までになく」商品が多い。昨年、こぼれと年末おつきなが、1カ月おきくらいに金曜日ばかりの企画と、わつていかぬと、れぞれ話していた。

2015・12・26 中日新聞

商業科が研究成果を発表

地域教育は、地域、施設、1、2年次生が主体で、月4回から1クール（約10週間）を要する。その中で、先生が「何を教えるか」よりも「何を学ぶか」を知ることが重要だ。先生は「何を教えるか」ではなく「何を学ぶか」を重視し、子どもたちが主体的に学ぶ機会を創出している。先生は「何を教えるか」よりも「何を学ぶか」を知ることが重要だ。先生は「何を教えるか」ではなく「何を学ぶか」を重視し、子どもたちが主体的に学ぶ機会を創出している。

顔をしじらに汗を流して、土を
 土を把握した。当初、想定しては居
 弱者が多いという点に、1グループ
 は若者のコミニテ
 ショを求めると、
 ル者が多いこと
 新たな課題に掲げて高
 齢者福祉施設など
 交流会を企画した。

プレゼンテーションをする生徒たち

地域で見つけた課題を解決

住居アンケートから、
 田代温泉養生護地と
 みなと開へる中、清
 聖を保つには提督者
 要と事だた。
 と利川養方の方の意識が
 大切だを分り、市に
 対して「公民館対抗」と
 イレ掃除平権」とマ
 ナー講座の開催を提
 案、掃除を繰り返すた
 けては疲れない。飯
 田入を呼び込むため
 も、行政の協力も必要

[illegible]